

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 11 日現在

機関番号：21301

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011 年度

課題番号：20780155

研究課題名 (和文) インドネシア漁業における資源管理と輸出インセンティブの解明

研究課題名 (英文) Resource Management and Export Incentives in Indonesian Fisheries

研究代表者

川島滋和 (KAWASHIMA SHIGEKAZU)

宮城大学・食産業学部・准教授

研究者番号：80404846

研究分野:農学

科研費の分科・細目：農業経済学

キーワード：農業と環境、資源管理

## 1. 研究計画の概要

日本の輸入水産物需要を支えているのは主にアジア諸国であり、水産物輸入の約半分はアジア諸国の水産資源に依存している。中でも、東南アジアからの輸入量は一貫して増加傾向にあり、日本への輸出インセンティブが東南アジア地域における水産資源の乱獲を招いているとも指摘されている。

本研究は、水産物輸出の増大と資源管理の関係を解明し、水産物貿易が持続的に進めるようにするために必要とされる政策・制度について検討を行うことを目的としている。

## 2. 研究の進捗状況

## (1)国内水産物価格の形成メカニズム

輸入比率の高い主要輸入水産物 7 品目のパネルデータを用いて、国内水産物の価格形成関数の分析を行った。第一に、短期の価格形成は主に水揚量に規定され、国内での需給バランスが短期の価格形成において重要な役割を果たしていることが分かった。第二に、長期的な価格形成には輸入価格の影響が強く反映され、水産物貿易のグローバル化に伴い、国内価格も輸入価格を通じて国際的な需給バランスの影響を受けていることが明らかになった。

## (2)マグロ国際市場の市場構造と価格支配力

資源の減少が危惧されているマグロを対象に、主要輸出国の価格支配力の程度を逆需要関数から推計した。推計結果から価格支配力は近年増加傾向にあることが明らかになった。資源の減少によって価格交渉力は輸入国から輸出国に移っている可能性を示唆している。輸出国の価格支配力に存在によって、国際的な資源管理へのインセンティブが損

なわれていることを論じた。

## (3)インドネシアのマグロ漁業における輸出インセンティブと資源管理の関係

インドネシアから日本に輸出されているマグロ類の貿易統計から、長期供給関数を計測した。日本への輸出向け需要の拡大に伴い、輸出価格は2000年まで上昇している。しかしながら、2000年以降、輸出量が減少する中、輸出価格は依然として上昇傾向を示している。長期供給関数の形状が後方屈曲となっており、インドネシア周辺のマグロ類資源の減少によって限界費用が上昇し、輸出価格の上昇を引き起こしている可能性を示唆した。

## 3. 現在までの達成度

統計データに基づく計量経済分析と現地調査による実態調査を並行して行ってきた。現地の漁港における調査では、市場データを入力するように努めてきたが、データが整備されていないケースが多かった。そのため、比較的データの信憑性が高い貿易データを用いて計量経済分析を行ってきた。

国際学会での研究報告や論文等、一定の成果を収めることができたが、市場データと資源管理の関係を実証するデータがなく、今後の研究課題としたい。

## 4. 今後の研究の推進方策

昨年度、現地の漁港調査で入試したデータには、漁獲物の体長、体重測定等の資源管理に関わるものが含まれている。これらのデータを精査し、市場データと資源管理の関係を実証するデータとなりうるか検討する。

また、貧困や失業など漁村における社会経済問題と資源管理の関係も探究していく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

川島滋和 「グローバル経済下の水産物価格形成」『農業経済研究別冊 日本農業経済学会論文集』(2008) pp.164-170

Kawashima, S. “Economic Evaluation of Soil Conservation and Reservoir Sediment Management: The Case of Wonogiri Reservoir in Central Java”, *Tohoku Journal of Agricultural Research* Vol.59 (2009) pp.142-152.

Kawashima, S. “Intensity of Competition, Market Power and Resource Management in the Japanese Tuna Imports Market”, Proceedings of 5<sup>th</sup> World Fisheries Congress (2009) CD-ROM.

Kawashima, S. and D. A. P. Sari, “Time-varying Armington elasticity and country-of-origin bias: from the dynamic perspective of the Japanese demand for beef imports”, *Australian Journal of Agricultural Resource Economics*, Vol.54 (2010) pp.27-41.

川島滋和 「農業センサス集落地図データを利用した耕作放棄地の要因分析」、『東北農業経済研究』28 (2) (2010) pp.23-29

〔学会発表〕(計4件)

Kawashima, S. “Intensity of Competition, Market Power and Resource Management in the Japanese Tuna Imports Market” The 5th World Fisheries Congress, October 20-24, 2008, Yokohama, Japan.

Kawashima, S. “Fisheries Resource Management under Globalisation: For the case of Japanese Tuna Imports Market” Resource Management in Asia-Pacific Program Research Seminar, 2010年2月19日 Australian National University.

D. A. P. Sari and Kawashima, S. “Poverty Mapping and Analysis in Indonesia using Principal Components Regression”, 日本農業経済学会, 京都大学, 2010年3月28日.

川島滋和 「インドネシア漁業の資源枯渇に関する計量経済分析」北日本漁業経済学会、平成22年10月23日、北海道大学.

〔図書〕(計1件)

Jamhari, S. Kawashima, H. Yonekura, “Incentive, Performance, and Choice of Strategy in Contract Broiler Farming”, Chapter8, *Economic Structure and Social Institutions in Rural Java* (Editors: Noriaki Iwamoto and Slamet Hartono), Pp.150-169. (2008) Gadjah Mada University Press.

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕